

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスKiddy四日市あかつき			
○保護者評価実施期間	2025年11月1日 ～ 2025年11月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年11月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士や、児童福祉施設の支援員、重度～軽度の障害児・者の支援員、障害者福祉の相談員等、多種多様な経歴を持つスタッフが多く、連携しやすい関係を構築している。 各児童が、大人になった際の生活・就労の為に、どんなスキルが必要かを見定め、そのスキルを得るために、今、必要な支援について検討・試行が行いやすい。	スタッフ各々の経験や学んだことに基づく視点で、忌憚ない意見が話し合えるような雰囲気を作ることを意識し、実現できている。 大人になってからの生活や就労をイメージする為に、福祉の事業所（令和7年度は、就労継続支援A型とB型の事業所）へ社会見学へ行った。	本人・家族が将来のイメージや夢を持ちやすいよう、福祉的就労以外にも、仕事の場や生活の場等の見学ができるよう社会資源の発掘と調整・連携を行っていく。 今後、ご家族が抱く、我が子の将来の不安に対して、少しでも安心していただけるよう、保護者間で不安を共有したり、障害者サービスや事例を紹介する機会を設けていく。
2	他事業所に比べ、外出活動が多く、ランチを食べる際の注文・自身でお金を払う・お店の人とコミュニケーションをとることや、電車に乗る・遠方へ出かける等も積極的に行っている。 また、スタッフが充実している為、海や川など、危険がある場所であっても、安全に遊ぶことができる。	スタッフ体制を整え、児童の情報や支援を共有し、スタッフ間で連携することで、家族でなかなか行けない場所にも、安心安全に行くことができている。 注文する・お金を払う・店員に感謝を述べる等を本人に負荷をかけすぎず経験していただくため、必要に応じた支援や配慮を行っている。	各スタッフの人脈や社会資源を活用し、家族や他の施設ではなかなか行けないような場所へ行ったり、未知の体験ができるような企画を検討していく。 今後も継続して、将来社会に出て必要となるスキルや動作について検討し、それらを習得していける経験を積んでいけるような支援を目指す。
3	スタッフ全員の人が良く、非常に良い雰囲気ですサービス提供が行えている。 初めての場所に苦手意識を持つ児童も、帰る頃には、「また来たい」と言ってくれることが多く、Kiddyの理念である「楽しく学ぶ」ことができる事業所である。	各児童の情緒面での様子を捉えることが非常に得意とするスタッフが多数おり、スタッフ同士も声を掛け合い、みんなが過ごしやすい雰囲気を作ることに成功している。 楽しいだけではなく、やるべきこと・苦手なことも少し取り組めるような支援や配慮をスタッフ全体で意識をし、本人への有効なアプローチを検討・共有し、対応している。	今後もKiddyの理念のある「楽しく学ぶ」を継続していく為、児童の気持ちや状態に共感しつつ、学ぶことの楽しさも伝えていけるような支援を目指していく。 今後も、スタッフ間の良い雰囲気を維持しつつ、個々の支援力の強化に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	色々な視点があるからこそ、支援方法や意見の統一が困難な場合がある。 意見の相違があった際は、誰かが自分の意見を我慢してしまっていることもあるかと考えられる。	支援会議等では、ブレインストーミング形式で全員が意見を言いやすい雰囲気を作り、各自が多くの意見を出すことができています。 各自の意見は多く出すことはできているが、それらの意見をまとめて、收拾をつけることが困難なことがあるように感じる。	各スタッフが、多くの忌憚なき意見を言い合える関係を築けているので、管理者がそれらの意見をうまくまとめるスキルを向上させる為の研修や学びの機会に参加していく。 また、各スタッフとも相談しあいながら、多くの意見を收拾していく術を模索していく。
2	低年齢層の児童が多く、小学校高学年や中学生以上には物足りない活動が多く、結果、小学校高学年・中学生以上の新規利用や利用の定着に繋がりにくい。	低年齢層の利用児童が多いため、全体での活動は、どうしても低年齢層向けのものが主になってしまう。	全体の活動は低年齢層の児童も参加しやすいものとし、高学年の児童には、活動で求める難易度を上げ、様々な年齢層の児童が参加しても楽しく学べるものを企画していく。 また、高学年の児童には、将来の生活や就労に対する課題を見つけ、個別の活動をすることで、より良い生活・就労に結びつける支援を行っていく。
3	みんなが参加しやすい質の高い活動は提供できているが、専門性の高い訓練の提供が少ない。	現状、専門性の高い訓練については、保育士や福祉に精通したスタッフが、独自で訓練方法を学び、児童が参加しやすいようアレンジして行っている。 よって、OT・PT・ST等の有資格者のスタッフが、専門性の高い訓練を提供している事業所と比べ、視点や支援方法、効果などは見劣りすると思われる。	現状のスタッフが専門的な研修に積極的に参加し、訓練の専門性の向上を図る。 専門性の向上を図りつつ、今まで以上に、様々な年齢層・特性の児童が参加しやすい訓練・活動の提供を第一と考え、より良い療育を行っていく。